

新世紀をむかえた大濠スポーツ

昨今、同窓会諸兄から耳にするのは、「最近運動部はどうなってるんだ」という声ばかりです。卒業生にとって、卒業後何年経っても、母校の運動部の活躍は気がかりです。かつての各部の栄光を知っている者にとっては特に胸がゆい思いです。長い目で見てみると、全ての部が一勢に活躍したということはない、そんなにはないのですが、実感としては、男子の部も少々寂しい思いです。さて同窓会では、新世紀を迎え、今までは違った形で母校のクラブ活動をバックアップしていこうという組織作りも始まっています。本年が復活元年となることを願ってやみません。

さて、その実績を探ってみましょう。本年度の活躍をみてみると、バスケット部はインターハイ、ウインターカップと全国出場を果たし、剣道部も昨夏の玉置嶽はベスト1でした。この2つの部が、継続的に大濠スポーツの伝統を支えているといえるでしょう。昨春は硬式テニス部が選抜大会に出場、バドミントン部は11年ぶりのインターハイ出場に続いて、今春は選抜大会に出場します。

バレー部・サッカー部・柔道部も間違いなく、県でベスト1以上の力を有しています。気になる硬式野球部ですが、最盛期に比べると、ここ10年程度低迷している感はありません。ただ野球の場合、いかなる名門校といえども、長いスパンで続くことが稀ではありません。福岡第一や西武、東福岡が大濠をライバルとして、力をつけた時期があったわけで、今度は再び大濠の出番です。離れの時期をのりこえ、継承する姿も聞かすと信じてやみません。

同様に駅伝部ですが、大牟田高校の都大路での快走が記憶に新しいのですが、あの都大路を例すなら間違いなく大濠です。年があらたまって先の西海駅



アジアジュニア選手権
西崎 佳郎 (3年)

伝では、一区で大牟田をおさえ区間賞、一区では土持池田が更に30秒近く差をひろげ、三区途中までトップでした。今度の年末は大牟田との一騎打ちが期待出来そうです。

我々同窓生は、どうしてもマスコミで大きくとりあげられるスポーツの部の成績ばかりに目がいきがちで、この紙面でもそれらの部を中心に紹介することになりましたが、大濠には他にも多くの部・同好会が存在し、生徒諸君は、それぞれの部で、自己実現にむかって日々、自己磨きに励んでいます。同窓会諸兄におかれましては、それら生徒諸君に對しまして、更なるご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

五年目の北京・修学旅行

高校の修学旅行、中華人民共和国への旅も本年度で五年目となった。毎年充実度を増し、初年度の生徒の満足度と今では随分違うだろう。一つには、先生方が多くの経験を積まれたこともあろうが、一番大きいのはやはり中国自体の変化にある。受け入れ側の体勢が整ったといっている。特に北京の変化は著しい。今の北京は「毎日変わる」といわれている。一年経って訪れると驚くべき変化である。

さて今回の旅行の訪問先・見学地は、万里の長城(八達嶺)・天安門・故宮・景山公園・明の十三陵・頤和園・雑技団見学・王府井などは例年どおりだったが、あらたに円明園・孔子廟などがそれに加わった。また初めて、人民大会堂の中を見学したが、大会堂前にバスを何台も停めたのは初めてだろうとのことだった。今回の旅行の目玉は、万里の長城付近の緑化のための植樹であ



万里の長城にて

った。このプロジェクトは日本の企業などがスポンサーとなり、現地の緑化運動を推めている団体と旅行者が協力して、砂漠化のすすむ万里の長城付近の緑を創らせようというもので、一クラスに、600本の割り当てで、植樹を行った。現地に行くまでは、用意された小さな苗木に土をかけるぐらいの形だけの作業かと思っていたが、着いて見ると軍手と、スコップ(日本の物より幅分柄が長い)を渡され、作業は本格的なものだった。作業終了後、A団では生徒会長長の岩島冬馬君が代表として、挨拶を行い、現地の団体より感謝状を頂いた。あれから数ヶ月経つが、どれ程成長しているだろうかと思えるだけでも心おどる有意義な思い出となった。

今秋6年目の北京で一応、中国への修学旅行は完了する予定であるが、年々充実度を増してきているだけに少々残念な気もする。高校生活で一番の思い出はという問いに修学旅行という答えが多いそうであるが、同窓会諸兄はどのような思い出をお持ちだろうか?

本年度入試状況

九州大法学部AO入試3名合格
センター試験も終わり、この会報が出る頃は、私大入試、国立大前期の個別試験も終わっているが、現時点(2/19)での推薦合格などの概要を取材させていただいた。特筆すべきは、九大法学部のAO入試に3名の合格者を出したことであろう。AO入試は昨年からのことであるが、それ以前の推薦から含めると過去6年で法学部には7名、法学部の2名を加えると9名の推薦合格者を出している。本年度は更に、東北大・丸工大・長崎大・福

教大・鹿体大などを含め、国立大学に合計9名の合格。センター後の推薦の出願も行われているので、その数は伸びそうである。

私立大へは福岡大学の附属推薦・一般推薦はともに例年並み。指定校推薦は文系31大学50名、理系20大学50名の、合計91名の推薦枠が指定された。早稲田大学2名・慶應大学・同志社大学・立命館大学2名・関西大学2名・明治大学・中央大学・東京理科大学3名などがその内容である。また一般推薦でも早稲田大学法学部・教育学部・上智大

学経済学部などにも合格者を出している。スポーツ推薦に關しても12名が既に合格、特に中央大学4名は傑出してゐる。

さて一般入試だが、本年はスーパー進学コースが、初の卒業生を送り出すのでその結果が注目される。初年度でもある。来年はいよいよ、中高一貫生の初の卒業でもある。ここ数年の入試動向が気になる。特に国立大上位校の合格者数で、その成否が問われることになるだろう。地元九州大学への出願は堅調ではあるが、本年もある程度の数は期待出来そう。西南学院大学・福岡大学への出願者数は10年前に比べると激減とみてよいが、実質倍率の低下から、合格者数は例年並みと思われる。3年生諸君は卒業式を前後して、本誌を手にすると思うが、国立大も発表前で、後期日程まで頑張らねばならぬ者もいるだろうが、最後まででの健闘を祈りたい。同窓会諸兄におかれましては、後輩の努力を見守っていただきたい。

黄綬褒章 受章記念祝賀会

平成12年7月26日(金)午後8時、水戸ビルニューオー2階多目的ホールで、安藤文六氏の黄綬褒章受章記念祝賀会が盛大に行われました。安藤文六氏は、多年に亘る道徳教育の向上に尽くされた功績により、平成11年度秋の褒章に輝いて、黄綬褒章の栄に浴びていただいたのです。

このたびは同法人道徳教育推進委員会九州支部の主催により、安藤文六氏の存在に敬意を込めて、贈り物とご功績を称え、受章記念祝賀会が執り行われ、誠にありがとうございました。なお、同氏は平成九年七月にも建設大臣表彰を受賞されました。

